

治験の認知度に関するアンケート調査結果について

アンケートを実施した背景

治験・臨床試験の推進に関する今後の方向性について 2025年版とりまとめ

VI. 治験・臨床試験に対する国民・患者の理解・参画促進

現在、世界で標準とされる医療は過去の治験・臨床試験の蓄積の上にある。その意味で治験・臨床試験は、医療の適正化や進歩を目的とした、必要不可欠な医療の一部であること、その成果は海外から輸入するだけでなく、我が国においても創り出すべきものであることについて、国民・患者・医療や研究に関わる全ての関係者で共有することが極めて重要である。

○治験・臨床試験の重要性に関する理解促進

国民の治験・臨床試験に対する理解については、コロナ禍を経て一定の変化がある可能性があり、改めて現状の治験・臨床試験に対する国民・患者の理解度について必要な調査を検討し、実態及び課題を把握した上で、適切な普及啓発を行い、国民のヘルスリテラシーの向上を図る。



- 若年層における治験への認知や理解を深めることは、将来の治験参加者の確保に不可欠
- 高校生～社会人を対象に、治験に対する認知状況やイメージ、参加意向などのアンケート調査を行うことで若年層における認知度の把握をするとともに現状の課題を洗い出し、今後の政策立案に活用

こども若者★いけんぷらす（こども・若者意見反映推進事業）

こども基本法等を踏まえ、各府省庁やこども家庭庁が、
こども・若者の意見を聴き、政策に反映するための仕組み。

事業の目的・狙い



政策に対して意見を伝えて、政策を決めるプロセス（過程）に主体的に
参画する機会・場を得られる。



こども・若者の意見を広く聴いて、制
度や政策に反映し、より良くできる。



こども・若者の意見を聴くことの
大切さについての理解がひろがる。

事業の仕組み



小学1年生～20代ならいつでもだれでも登録（＝ぷらすメンバー）
登録人数：約4,500人（R7.3現在）

参加

意見聴取

いけんひろば（意見を伝える機会）

意見を聴きたい省庁からのテーマ／ぷらすメンバーからのテーマ

対面

オンライン

チャット

アンケート

様々な方法で実施

こどもや若者の意見表明
のサポートのため、
・事前の情報提供
・ファシリテーターによる
進行 等を実施



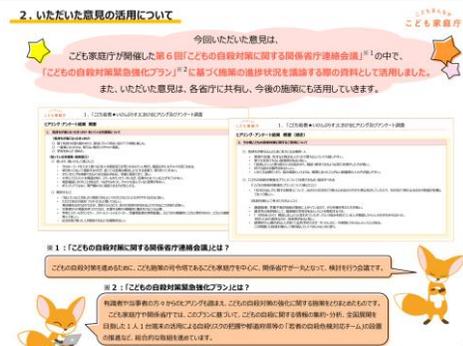
こども・若者の活動や生活の場に出向いて意見を聴く

例：児童養護施設、フリースクール、児童館、子ども食堂

令和6年度実績：22テーマ、延べ約1,900人から意見聴取（アンケート回答件数含む）

フィードバック

聴いた意見をどう反
映したか、反映しな
かった場合はどうし
てか、こどもや若者に
フィードバック



意見反映

こども・若者から聴いた
意見について検討し、
政策等へ反映できるもの
は反映する。

こども若者★
いけんぷらすの
運営には、
ぷらすメンバ
ーの有志も参画。
（みんなのパート
ナーぼんぽー）₃

アンケート概要

テーマ：「みんなで未来の医療をつくる。「治験」って知ってる？」

実施期間：令和7年11月14日～11月30日

対象：高校生年代～20代のぷらすメンバー

回答数：59件



**みんなの意見で、
社会をぷらすに！**

「いけんひろば」は、ぷらすメンバーの方が、
各省庁から提案のあったテーマやこども・若者のみなさんが
意見を伝えたいテーマについて意見を伝えることができる機会です。
さあ、ぷらすメンバーになって、いけんひろばに参加しよう！

こども若者★いけんぷらす <https://ikenplus.cfa.go.jp/>



こども若者★いけんぷらす 事務局

2025/12/08 11:02

【開催済み（フィードバック前）】みんなで未来の医療をつくる。「治験」って知ってる？

令和7年11月に「みんなで未来の医療をつくる。「治験」って知ってる？（アンケート）」がテーマのいけんひろばを開催しました！✨

①開催手法

アンケート（令和7年11月14日～11月30日）

②対象

高校生年代～20代のぷらすメンバー

③テーマの説明（担当省庁：厚生労働省）

新しい薬ができるまでには、「薬の候補」を見つけるところから始まり、動物や人で安全性や有効性を確かめます。その中でも人（患者さんや健康な大人）を対象に行われる試験を「治験（ちけん）」といいます。治験の結果を国（厚生労働省）に申請し、薬として承認されてはじめて多くの患者さんが安心して使えるようになります。このように、治験は医療の発展や国民のみなさんの健康を守る上で欠かせないプロセスであり、多くの人に治験のことを知ってもらいたいと思っています。今回は、こども・若者世代のみなさんの中でどのくらいの人が治験を知っているか、治験に参加してみたいかを調査するために、アンケートを作成しました。治験について聞いたことがない人もいるかもしれませんが、このアンケートが治験を知る機会になると嬉しいです。

いけんのまとめ

(ポイント①) 治験参加へのハードルを感じている

- ✓ 治験そのものに関する認知度について「意味を理解している」だけでも7割に上り、認知度が高いことが分かった。
- ✓ 一方で、回答者の約4割が治験への参加意向を示さず、「あなたの親やきょうだい、パートナーが患者の立場になったとき、治験に参加してほしいですか？」という問に対しては、さらに参加意向が低くなる傾向が見られた。
- ✓ 安全性への不安や、効果の不確実性が心理的ハードルとして挙げられている。
- ✓ 社会的貢献の意義は理解されるものの、それだけでは治験に参加する動機付けが弱いといえる。

(ポイント②) 正確で信頼のある情報発信

- ✓ 治験に関する情報が届いていないとの回答が約8割であり、情報発信不足は否定できない。
- ✓ 若年層へのリーチ方法として、SNSやインターネット広告の活用は効果が期待される。SNS以外にも、学校や職場、医療機関など、日常生活の中で治験に触れられる仕組みが重要である。
- ✓ 治験に関して不安や誤解が先行しないよう、正しい情報を信頼できる機関から分かりやすく発信することが期待される。

